

伊勢の宮に詣づる人の日にまして

あとをたたぬがうれしかりけり

(昭和天皇 御製)

七月二十四日(木)～二十六日(土)の三日間で恒例の木曾御嶽山の登拝を行った。本年もお天気に恵まれ、三笠山、王滝頂上に続き、剣ヶ峰までお導きを頂き、大神様のご靈氣をいただくことができた。この場をお借りして皆様から多大なるお力添え、日頃の御精進に感謝を申し上げたい。御嶽山においては、かつては珍しくなかった白装束を着て「六根清浄」を唱えながら登る人達の姿も今ではほとんど見られなくなり、一般の登山者の方から我々が「かっこいい」と写真を求められることもあった。また、「六根清浄の言葉を聞いているとこちらの背中も押されるような気がします。」ととてもうれしい言葉をかけていただいた。登拝の様子は当教会のホームページ(教会名で検索していただければ見つかると思う。)よりご覧いただけるので是非ご覧になっていただきたい。

御嶽山の登拝に続き、八月三日(日)には「易と御大尊」という演題で講習会を行った。様々な質問もあり、大変有意義な会となった。ところで演題の「易(えき)」「御大尊(ごだいそん)」とはどのようなものかご存知であろうか。「御大尊」とは本教会の御焚上祭に用いる神籬(ひもろぎ)を指す。この御大尊の上がり方などで御神意を読み取っていくのであるが、神示を読み取る際に必要となるのが「易」の考え方なのである。それでは「易」とは一体どのようなものなのか。今回は「易」について掻い摘んで紹介していると思う。

易とは伝説によれば今より五千年ほど前に中国で生まれた思想であり、儒教などに大きな影響を与えているものである。陰と陽の組み合わせで森羅万象を表現し、占いはもちろん、主に君主への教え、つまり帝王学として現代に至るまで受け継がれてきた。ちなみに中国で生まれた易は仏教とともに六～七世紀に日本に伝えられたと言われている。易経は「ザ・ブックオブチェンジ」と英訳されていることから分かるように、様々な変化を先取りし、その変化にどのように対応していけばよいかを教えている。農耕を生活の基盤とする我が国の為政者にとって、季節や天候の移り変わりをとらえ民を指導するのに易は大変都合の良いものであった。今上陛下の「継宮明仁(つぐのみやあきひと)」というお名前が、易の中の言葉からつけられていることから日本と易の関係の深さをうかがうことができる。また、九星気学や家相などの考え方の根幹には易があり、今でも身近なところで易は活かされているのである。

それではなぜ御焚上祭において、御神意をうかがう際に易を用いているのか。易を使って占う者、俗にいう易者は神様から示された「卦(か)」と「爻(こう)」を読み取り、相談者に答えを伝えていく。神様と人との間のパイプ役である神職のことを「仲執持ち(なかつりもち)」と言うが、易者もまた仲執持ちと言うことができるだろう。つまり易

占とは神職が神示を受け取るのと同じものである。このようなエピソードもある。明治の世に易聖と言われた高島嘉右衛門という人物がいた。高島易断と言えは聞いたことのある人は多いのではないか。高島易断の高島はこの高島嘉右衛門からとったものである。そんな高島が熱田神宮の神職に講義をした際に、熱田神宮の神様に「雨はいつ降るのか」とお伺いし、易を通じて見事に的中させたというのだ。高島はこの時神職に「神慮を知るために易学がある。易学は神の語学で神意に感通して人に通弁するものだ。」と話をしたそうである。高島の言葉を言い換えると「易とは神様と人間との共通言語」とも言えるかもしれない。易は御神意を受け取り、人に伝えるために無くてはならないツールなのだ。だからこそ、御焚上祭において易を用いているのだ。

御嶽山を信仰する多くの講社がそうであったように、当教会でもかつて「御座(おざ)」という形で御神意をうかがっていた。御座とは憑依と言ひ換えるイメージが湧くかもしれない。しかし、先代の嶽基彦霊神が「科学の発達していく時代の中で、目に見えるものではないと信じられなくなるだろう」と考え、目に見て分かる形で御神意をお伺いすることができないか、と御嶽山に籠り、苦心の末作り上げたのが今の御焚上祭の形なのだ。

高島嘉右衛門は神職を相手に易を学べと繰り返し説いてきたという。嶽基彦霊神が易と出会い、御焚上祭に応用することとなったのは、一人の神道家として必然だったのかも知れない。

行事予定

- ◎十月五日(日) 正午より 月例祭(教会創立記念祭)
- ◎十一月二日(日) 正午より 光神祭
- ◎十二月七日(日) 正午より 月例祭

七・八月の神事

冒頭でも触れましたが、本年も無事に御嶽山の登拝を終えることができました。来年も皆様と御一緒に登拝できることを願っております。また本年の登拝に際して多大なるご奉納をいただきました。この場をお借りして改めて厚く御礼を申し上げます。

